

にいの ゆき 新野の雪まつり

雪は豊年のしるし

にいの
新野の雪まつりは、雪を稲穂の花にみたて、大雪(豊年)を願う祭り。祭り当日に雪が降ると豊年になるといわれ、新野に雪がないときであっても、離れた峠から雪を準備し、神前に供える。伊豆神社境内で行われ、田楽・舞楽・神楽・猿楽、田遊びなどの日本の芸能絵巻が徹夜で繰り広げられる。雪(水)への祈りは、豊年願いのほか、様々な水象現象に繋がっている。1977(昭和52)年、国重要無形民俗文化財に指定された。

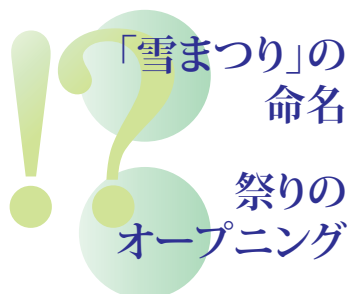
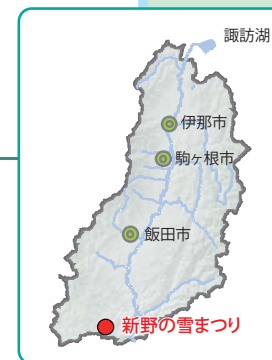


雪が主役 雪が降ると豊年になる



information

- アクセス
天龍峡ICから35km
車で1時間10分
- 所在地
阿南町新野



おりくちしのぶ
国文学者・歌人である折口信夫は、「雪まつり」の命名者といわれ、全国に「日本の芸能を学ぶものは、一度見る必要のある祭り」と紹介した。

祭りは、見物人たちが薪などの棒で庁屋(出番を待つ支度部屋)の壁を叩き、「ランジョウ(乱声)、ランジョウ」と呼びかけることから始まる。悪霊を鎮める作法だったといわれている。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)